メッセージ　9

柱と発光体

聖書：啓 3:7-13．ピリピ 2:12-16

Ⅰ．わたしたちは三一の神の中の柱となるために、召会のために神の定められた道、すなわち、ヒラデルヒヤの道を取らなければなりません。回復の召会（ヒラデルヒヤに在る召会によって表徴されている）だけが、神の永遠の定められた御旨を成就し、彼の心の願いを満たすことができます――啓 3:7-13．参照、21:22：

Ａ．ヒラデルヒヤにおける勝利を得る信者は、柱であり、現にある真理を知っており、真理の絶対性を維持し、真理の柱また基礎としての召会のために真理で構成されています――Ⅱペテロ 1:12．Ⅰテモテ 3:15-16。

Ｂ．ヒラデルヒヤにおける勝利を得る信者は、自分の持っているものをしっかりと保ちます。彼らが持っているものは、「この務め」、すなわち、新約の唯一の務めです。実は、主の回復はわたしたちを新約の唯一の務めへと連れ戻すことです――啓 3:11．Ⅱコリント 4:1：

１．その霊の務めは、新契約の務めであり、神聖で奥義的な「インク」である生ける神の霊をもってわたしたちの心に書き記すことによってわたしたちを神化し、わたしたちをキリストの生ける手紙とならせます。これは神聖な啓示の最高峰です――3:3，6，8，18．4:1．参照、啓 2:7 後半．22:17 前半。

２．義とする務めは、キリストの務めです。彼はわたしたちの客観的な義であり、わたしたちを義とします。また彼はわたしたちの主観的な義であり、その霊の造り変える働きによってわたしたちの中へと「刺繍」され、神の有機的な救いにおいてキリストを生かし出させ、キリストの真の表現とならせます。これは神・人の生活です――Ⅱコリント 3:9．詩 45:1，13-14．ローマ 5:10。

３．和解の務めは、罪の赦しを通して世の人をキリストへと和解させる務めであって、彼らに法理的な贖いを得させます。また信者たちをキリストへと和解させる務めであって、彼らを霊の中で、すなわち至聖所の中で生きる人とならせて、彼らに有機的な救いを得させます。これは神にしたがって人々を牧養することです――Ⅱコリント 5:18-21．Ⅰペテロ 5:1-4。

４．成就されて柱となる道は、この務めをしっかりと保ち、神のエコノミーの積極的な内容を食物とし、主の頭首権の下で主の行動の現在の流れの中にとどまって、死と分裂から離れ去ることによります――Ⅱテモテ 3:10．Ⅰテモテ 4:15．ローマ 8:6．16:17．Ⅰヨハネ 2:18-20．Ⅰコリント 11:19．民 16:3，7。

Ｃ．ヒラデルヒヤにおける勝利者の特徴は、彼らが神のエコノミーの神聖な啓示の最高峰に到達することです：

１．アジアにある一つの召会は独特であり、主によって大いに称賛されました。それはヒラデルヒヤに在る召会です。主が彼らを評価したのは、彼らが主の言葉を守ったからです。それが意味するのは、彼らが使徒たちの教えの言葉、神のエコノミーの健康な教え、神聖な啓示の最高峰から離れ去らなかったということです――啓 3:8．Ⅱテモテ 3:16-17．Ⅰテモテ 1:3-4。

２．勝利者が宮の柱となるとは、彼らが三一の神の中で柱となることを意味します。なぜなら宮は、「主なる神、全能者と小羊」であるからです。神は彼らの中へと建造されており、彼らを生ける尊い石とします。彼らは神の中へと建造されており、神の中の石の柱となり、神と合併されて、神と人の相互の住まいとなります――啓 3:12 前半．21:22，3．詩 90:1．ヨハネ 14:23．参照、列王上 7:15-22。

３．神の御名、新しいエルサレムの名、主の新しい御名が勝利者の上に書き記されていることが示しているのは、神が何であるか、新エルサレムの性質、主のパースンがすべて彼らの中へと造り込まれており、彼らを三一の神と標示し、彼らを神格においてではなく、命と性質において神とするということです――啓 3:12 後半．22:4 後半。

Ｄ．ヒラデルヒヤにおける勝利者の特徴は、彼らがキリストの豊富を享受することによって、神・人の生活をすることです――3:7．イザヤ 22:15，20-24：

１．ヒラデルヒヤにおける勝利者は、少しばかりの力を持っています。これが示しているのは、主を喜ばせることは、わたしたちが彼のために多く行なうことではなく、わたしたちが持っているものをもって彼のために最善を尽くすことであるということです――啓 3:8．Ⅱコリント 12:7-10．マルコ 14:8。

２．ヒラデルヒヤにおける勝利者は、主の言葉を守り、愛します。それは彼らにとって「幾千の金や銀にも」まさるのです（啓 3:8．詩 119:72，140）。彼が神の息吹かれた聖書を受け取るのは、すべての祈りによって神の息を持つ神の人となることによってであり、また神のエコノミーの健康な教えにとどまることによってです（エペソ 6:17-18．Ⅱテモテ 3:14-17．参照、Ⅰテモテ 6:3-4）。

３．ヒラデルヒヤにおける勝利者は、主の御名を否みません（啓 3:8）。彼らは主イエス・キリストの御名以外のすべての名を放棄します。彼らは主の御名を呼び求めて、彼の豊富を受け入れ（ローマ 10:9-10，12-13）、イエス・キリストは主であると公に言い表して、父なる神の栄光となります（ピリピ 2:11）。

Ｅ．ヒラデルヒヤにおける勝利者の特徴は、彼らの兄弟愛です。彼らの間で愛はまさっており、彼らは神にしたがって、すなわち父なる神の愛し赦す心と、救い主キリストの牧養し捜し求める霊にしたがって人々を牧養します：

１．主の回復は、主イエスを愛することの回復です。ヒラデルヒヤにおける勝利者は一の真の立場に立ち、自分自身を神の愛の中に保って主を愛し、またすべての兄弟を愛します――ユダ 20-21 節．Ⅱコリント 5:14．ヨハネ 12:3．ルカ 7:47．Ⅰヨハネ 3:14-16．参照、詩第 133 篇。

２．召会の中でかしらになりたがることは、すべての事柄において主に第一位を与えることによって主をわたしたちの初めの愛とすることに相対します――Ⅲヨハネ 9 節．コロサイ 1:18 後半。

３．バイタルグループの中で、愛はまさらなければなりません。神はまずわたしたちを愛し、彼の愛をわたしたちに注入して、わたしたちの内側に愛を生み出しました。わたしたちはこの愛をもって、彼と兄弟たちを愛します――Ⅰコリント 12:31 後半．13:4-8，13．Ⅰヨハネ 3:14。

Ｆ．ヒラデルヒヤの道は、詩篇第 23 篇で啓示されている神の永遠のエコノミーの道、

キリストが彼の天の務めにおいて召会を牧養する道であり、彼の神聖な三一の中でご自身をわたしたちの存在の中へと分与する道です。それは、わたしたちが神・人の生活をして、神聖な啓示の最高峰に到達するためです。

Ⅱ．暗く腐敗した世のただ中で、わたしたちの機能は発光体のように輝き、命の言を提供することです――ピリピ 2:12-16：

A．キリストは太陽であり、召会（月）と信者（惑星）を持っており、彼らは命の言を提供することによってキリストを反映します。命の言を提供することは、キリストを生かし出すことによってそれを適用し、提示し、世の人にささげることです――使徒 5:20。

B．わたしたちの内で活動する神は（ピリピ 2:13）、供給する霊（1:19）、復活の力（3:10）、力づけるキリストです（4:13）。発光体のように輝くことは（2:15）、キリストを大きく表現することであり（1:20）、命の言を提供することは（2:16）、キリストを生きることです（1:21 前半）。

C．わたしたちは、キリストを復活の力、内で活動する神、わたしたちを力づける方として認識し、世にあって発光体のように輝いて、彼を大きく表現することを渇望しなければなりません――3:10．2:13．4:13．1:20。

D．ペテロの肉体を獄から解放した力は、神の力でしたが、パウロが獄の中にとどまっていた時に経験した力は、復活の力でした――使徒 5:18-20．ピリピ 1:19．3:10：

1．神の新約エコノミーにおいて、神の意図は外側の奇跡ではなく、内側の奇跡です。内側の驚くべきことは、キリストがその霊としてわたしたちの中へと造り込まれて、わたしたちの救いとなり、わたしたちの弱さの中で内側でわたしたちを維持し、わたしたちを強め、わたしたちを力づけて、わたしたちにキリストを輝かし出させるということです――Ⅱコリント 12:7-10。

2．力づけるキリストは、わたしたちがどのような環境や境遇においてもキリストを輝かし出し、彼を表現するための秘訣です。この秘訣の秘訣は、わたしたちの霊の中のイエス・キリストのすべてを含む霊であり、わたしたちの日ごと、瞬間ごとの救いです――ピリピ 1:19．4:23。

E．つぶやきと議論はいずれも、わたしたちがキリストを経験し享受することを妨げ、彼がわたしたちの中で、またわたしたちを通して輝いて栄光を現すことができないようにします――2:14：

1．つぶやきは、不満を抱いて陰でぶつぶつ言ったり愚痴をこぼしたりすることであり、あら探しをすること、陰で議論すること、不満や不平を言うことを含んでいます。「また彼らのある者がつぶやいて、滅ぼす者によって滅ぼされたように、つぶやいてはいけません」――Ⅰコリント 10:10。

2．議論は、疑念や疑いを帯びた論争や討論です。それは、疑問視すること、疑うこと、また推論し結論を下すことを含んでいます――参照、Ⅰテモテ 1:3-6．6:3-4．Ⅱコリント 11:2-3。

3．反逆的でののしる言葉は、議論から生じます。主のしもべは議論から救われ、主によって照らされて「祝福された盲目」を持ち、命の領域の中で、光の権威の下で、キリストの頭首権の下で生きなければならず、正しいか間違っているかの領

域の中で、暗やみの権威の下で生きてはなりません――使徒 22:10．コロサイ 1:12-13．ローマ 9:20-21．11:34．参照、使徒 16:25。

４．人の反逆は、言葉、思想、議論の中に現れます。思想と議論は、神の敵であるサタンの要塞であり、神に不従順な者たちの思いの中にあります。霊的戦いを通して議論は破壊され、あらゆる思想はとりこにされてキリストに従わなければなりません――Ⅱコリント 10:3-5。

５．レビ記第 18 章から第 22 章において、主は彼の民に何かを行なうように命じた時はいつでも、命令の間に「わたしはエホバである」という言葉を挿入しました。そこには「なぜなら」という言葉さえありません。「わたしはエホバである」がその理由です。

Ｆ．つぶやいたり議論したりすることから救われて、キリストを生き、キリストの発光体としてキリストを輝かし出す道は、わたしたちの内側で動機づける力としての彼との接触の中にとどまることです。それは彼を命の言として享受し、祈りの中で彼との交わりの中にとどまり、すばらしい霊としての三一の神によって、わたしたちのすばらしい霊の中で、歓喜し、感謝し、賛美する生活をし、キリストに栄光のからだを得ていただくことによります――ピリピ 1:19．2:13．3:10．4:13．2:15．4:6．Ⅰテサロニケ 5:16-20。

©2026 Living Stream Ministry